



令和5年12月25日
冬休み号
No.453
発行責任者
校長 湊 仁

今年を振り返って

校長 湊 仁

長かった2学期は、本日、無事終業式を迎えました。今年も残すところ僅かとなりましたが、振り返りますと5月からはアフターコロナとして、当たり前の日常が戻ってきて大きな節目の年となりました。保護者・地域の皆様にも学校公開や行事等に足を運んでくださったり、子ども達の活動をサポートしてくださったりと、充実した取組が多く行われました。本当にありがとうございました。

コロナで制約が多かった小グループや交流的な学習が復活し、給食では、4年生までは、ほぼ初めてとなる班(向かい合わせ)による給食が始まり、入場に制限や入替制度を導入していた行事も感染症対策としての制限をほぼ撤廃しました。運動会では、保護者・地域の皆様の熱い声援を受け、音楽会では、沢山の方々に学習の成果を発表し、子ども達の活躍の様子を披露できました。また、縦割り班活動や交流学习も復活し、コロナにより中断していた二小の特色でもある異年齢、異学年による教え合い、学び合いが積極的に行えるようになったことは、本当に良かったと感じます。コミュニティースクールやくまっ子応援団の皆様、授業補助をされる支援員やボランティア、地域の協力者が積極的に学びのサポートをしていただけるようになったことも大きいと思います。



しかし、良いことばかりではないと思っています。中断していた取り組みや行事が復活し、多忙感や疲労感が増したように感じます。そして SNS 利用は、コロナにより一気に加速し、子ども同士のトラブルには、LINE や通信ゲームに関連するものが増えてきました。学校ではなかなか掴めないネット空間でのトラブルやいじめといった新たな構図、モラルやマナー違反、中には金銭トラブルといった案件も見られ、「心の教育の充実」「基本的生活習慣の確立」等がますます求められるでしょう。

さあ 2024 年は、どんな年になるでしょうか。日本の経済状況は、円安や物価上昇など、衰退化していくと不安視されています。一方で国際社会の中での日本の子ども達の学力は回復しつつあります。ギガスクール構想による一人一台端末導入により、授業スタイルは5年前とは、大きく変わりました。調べ方やまとめ方、互いの考えの共有や比較の仕方が手軽にできるようになり、学びのスタイルは大きく様変わりしました。プレゼンテーションの能力も高まり、自分たちの考え・学びを言葉とデータや図などの資料を交え、伝える力が伸びてきています。ますますその資質能力が向上していくことでしょう。



そして来年度は、二小の創立150周年を迎えます。記念式典・祝賀行事をはじめ、それに関連する様々な取組が行われる予定です。本日、併せて150周年記念便り「みりの みち」を発行しました。ぜひご覧いただき、関心を高めていただければと思います。

ますます寒さも厳しくなってきます。今年も大変にお世話になりました。皆様、健康には留意され、元気によいお年をお迎えください。